

# Challenging

# OTSUMA Ranzan



大妻嵐山  
ここでなら  
できそう。

Otsuma Ranzan Junior and Senior High School

Global Eco-Science School

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 558 0493-62-2281 大妻嵐山中学校高等学校 2021.4.6

## 令和3年度 スタート号…始業式・入学式…

### 受け継ごう! 「自学の文化は嵐山の文化」… もう「無理」とは言わせない!

若い人の間で、「もう、ムリ!」という言葉をよく耳にする。これは、細かなことを言えば、自らに、自らの限界を設けている自虐的な言葉ではないでしょうか。皆さんは「もう、ムリ!」なんて言葉は使っていないですよね。

校長先生の始業式のお話で、この3月に卒業した生徒たちの自学の様子についてお話がありました。大妻嵐山に限らず学校にはいろいろな文化があります。こうした学校文化は、代々の生徒に受け継がれ、その学校の伝統文化となり、学校のカラーとなっていくものです。伝統校であればあるほど不易な文化が、自然とその学生たちに身につき、彼らの「誇り」となって連帯感や帰属意識を一層醸成しているのです。



また、校長先生がお話しされたように、嵐山には嵐山の学校文化があります。やはり、大妻である限り、自立した女性として自走していくことは、皆さんの大妻嵐山生として課せられミッションでしょう。「もうムリ」なんて自らに限界を設けないでください。そして、「自学の文化は嵐山の文化」と胸を張って言えるよう実践してみましょう。

### 「祝!入学…ようこそ嵐山へ」…「確かな一步の積み重ねでしか、遠くへは行けない」…

4月7日(水)の午前に中学校、午後に高校の入学式が挙行されました。新入生の皆さん、保護者の皆様ご入学おめでとうございます。昨年実施できなかった入学式でしたが、今年は中学校と高校とを分けて、保護者の出席も1名のみでディスタンスをしっかりとった感染防止対策のもとで実施いたしました。

中学生も高校生も入学式に臨む表情とハキハキとした「ハイ」という返事に新たな学校生活に対する意気込みを感じられることができました。

校長先生の式辞では、iPS細胞の研究でノーベル賞を受賞した山中京大教授と「ワンピース」の作者尾田栄一郎さんのエピソードを交えて「手の届く目標を一つ一つクリアしていくことの大切さについてお話しさされました。



イチローの言葉「確かな一步の積み重ねでしか、遠くへは行けない」など、大きな目標を最初から花火のように打ち上げても多くは失敗してしまうかもしれません。やはり、「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただひとつの道」なのかもしれません。

### 【学びを変える嵐山の取組 2021】… 嵐山生の「学び」とは? …

3月13日(土)には、嵐山の取組として、①サイエンス発表会(中学)、②グローバルリンクス講演会(高校)③学びの改革としての公開授業研究が行われました。今後も、こうした取組において、その成果をどのようにアセスメントしていくのかの方法を探りながら進行していきたいと思います。

## ① サイエンス発表会(中学)

中学では、サイエンス発表会が行われました。中1生はオオムラサキの研究発表、中3生は科学論文の発表を行いました。科学論文のテーマは、「音楽」「紅茶」「メイク」「インコ」「あめ」「シャボン玉」と様々。発表時間が限られている中で、各グループともに工夫を凝らした発表となりました。

【先生より講評】中学1年生は、コロナ禍の中で例年通りの観察ができない中ではありましたが、それぞれの班が仲間と協力して発表まで繋げていった努力は大変素晴らしいと感じました。この経験を、中2、3年での学習の様々な場面に活かしていってもらいたいと思います。

中学3年生は、さすが3年生！と感じる科学論文発表でした。聞き手の興味を引く内容に溢れていましたね。普段から色々なことにおいて『なんでだろう？』と疑問を感じる感性があつてのことだと思います。最高学年として素晴らしい発表だったと思います。



## ②グローバルリンクス講演会(高校) 「クリエイティブ&グローバルに生きる」

講師 音楽家 サルディ佐藤比奈子 先生

高校では、音楽家 サルディ佐藤比奈子による講演。彼女は山形県鶴岡市出身、米ボストン・ニューヨーク在住 16年のち、2020年秋に東京に移住。8歳から「小さなジャズピアニスト」として日常的にステージに立つ。奨学金を受けて米バークリー音楽大学に留学という素晴らしい経歴の持ち主。しかし、ここに来るまでには、苦難の連続だったようで、何度も挫折を繰り返しながら、ここに至ったとのこと。彼女が嵐山生に伝えたいメッセージとして「覚悟」をあげていたのが印象的でした。何をするにも、それ相応の苦しみが伴い、それを克服するための努力が必要となります。こうした壁を乗り越えて成長があるのであり、こうした壁を乗り越えるには、一人ひとりに「覚悟」が必要だということです。大きな「覚悟」であればあるほど、乗り越える力は強いでしょう。



## ③学びの改革としての授業研究…学びの改革を目指し「学びを止めない」嵐山の先生方の取組

大妻嵐山中学校・高等学校では、これまで嵐山が目指す4つの力の育成を目指して「生徒の学びを変える」教育活動を研究・模索を続けています。「生徒が主体的に学ぶ」「教えてもらうのを待つのではなく、獲得した知識や技能を使ってみずから考える」「グローバルな視点から大局を見通せる力」など多くの方々の支援をいただきながら学校としての教育観を転換することを目指しています。

